

第7回 厚木看護専門学校 学校関係者評価委員会 議事録

日時：2022年6月2日(木)

15:55～16:55

場所：厚木看護専門学校 会議室

1 委員出席者（11人）

- (1) 渡辺 美加子（神奈川県リハビリテーション病院 副院長兼看護部長）
- (2) 郡山 美恵子（厚木市立病院 副院長兼看護部長）
- (3) 佐藤 裕子（愛光病院 看護科長）
- (4) 佐久間 謙一（厚木看護専門学校同窓会長【愛光病院 看護科長】）
- (5) 榊 恵子（神奈川県立保健福祉大学 看護学科長）
- (6) 益井 明子（厚木看護専門学校 講師）
- (7) 風間 徹（厚木市松枝地区自治会長）
- (8) 渡辺 そのみ（厚木看護専門学校3年生 保護者）
- (9) 大谷 直子（厚木看護専門学校2年生 保護者）
- (10) 村山 紗菜（厚木看護専門学校2年生 学生自治会長）
- (11) 柚原 あい（厚木看護専門学校2年生）

2 厚木看護専門学校教職員出席者（5人）

学校長 武藤和恵、 副学校長 五十嵐一美、
看護学科長 島田真由美、 看護学科総括主査 持木香代、 総務課長 茂木憲明

3 議題

- (1) 報告
 - ア スクールガイダンスの紹介
 - イ 自己点検・自己評価 2021年度の結果と取り組み
 - ウ 明日の厚木看護専門学校を考える会 アンケート結果
 - エ 2022年4月新入学生へのアンケート結果
- (2) 校内見学
- (3) 報告に関する質疑応答、意見交換
- (4) 配付資料
 - ア 2023年度入学生用 スクールガイダンス
 - イ 2021年度 自己点検・自己評価報告書
 - ウ 明日の厚木看護専門学校を考えるアンケート結果
 - エ 2022年4月新入学生へのアンケート結果
 - オ 学校関係者評価委員会名簿
 - カ 学校関係者評価委員会規程
 - キ 学校関係者評価委員会座席表

4 内容等

【五十嵐副学校長】

配付資料の確認、委員紹介を行った。

【武藤学校長挨拶】

学生の実習においては、新型コロナウイルス感染対策を緩められない状況である。

2022年3月には、当時の3年生が国家試験に全員合格し、全員県内に就職した。そして県内県央地区への就職が9割弱となっている。

2022年4月に新1年生が入学し、2022年度からの新たなカリキュラムの授業で学んでいる。今後2年間は旧カリキュラムの授業と混在することとなる。

新型コロナウイルス感染対策の後押しもあり、シミュレーター等の実習器材を増やすこともできた。またマイクロソフトチームズで、講師や教職員及び学生とのやりとりをはじめ、ICT化を進めているところである。

本日は、教職員による自己点検・自己評価により2021年度の教務実績を振り返った内容を報告する。適切な評価を行っているか、皆様からのご意見を賜りたい。

【五十嵐副学校長】

配付資料に基づき、報告事項のアを説明した。

【持木総括主査】

配付資料に基づき、報告事項のイ、ウ、エを説明した。

上記(2)校内見学のあと、以下の意見交換があった。

【榊委員】

国家試験の合格率が2年連続で100%であることは素晴らしいことだ。

新型コロナウイルス感染対策で進められたという、タブレット学習のメリットとデメリットを教えてほしい。

【島田看護学科長】

メリットは、2021年度末は、コロナ禍のなか国家試験が行われ、陽性者は受験できない状況であった。このため2022年1月から当時の3年生は登校しないようにし、当校で使用しているマイクロソフトチームズを活用し、電子テキストを使い、時間を決めてグループ学習を行ったことである。

デメリットは、紙に書いて勉強したほうが、知識として身につく学生も多いため、個別に使い分ける必要があったことである。

【村山委員】

学生は、勉強に必要な情報はタブレットに入れて取り組んでいた。しかし学習方法は学生個々に違いがあり、印刷せずに画面で勉強したり、印刷をした紙ベースで勉強する学生もあり、タブレットも学生により使い方が異なっている。

【柚原委員】

私の場合は紙ベースを主にしている。主な課題をメモして内容を掘り下げ、教員の示すポイントを赤字で加えたりして工夫をしている。

【榊委員】

教科書もタブレットで配信しているのか。学校で購入しているのか。

【五十嵐副学校長】

タブレットは学校でレンタルしている。故障時には交換を含め迅速な対応を可能にしている。教科書もタブレットにダウンロードしている。

当校教員の授業を参観すると、学生が「調べ学習」に取り組んでいる。教員が話した

ことを直ぐに URL で調べている。

【渡辺美加子委員】

神奈川県リハ病院での実習中に、「これを調べてね」と職員が話すと、すぐにタブレットで調べて教えてくれる。反応が早い。

【榊委員】

タブレットは、実習先にも持っていき使用しているのか。

【五十嵐副学校長】

タブレットには米軍で使用するプロテクターをつけている。落としたとしても破損することはなく、これまでも破損した事例はない。

【武藤学校長】

タブレットを使うことを推進しているものの、文字を書かなくなる影響が心配である。文章表現力の向上が今後どうなっていくか不安は残る。

【佐久間委員】

学生の年齢により、使い方は異なるものか。

【島田看護学科長】

2年生の入学時平均年齢が18歳、3年生でも19歳と若い人が多い。30代後半や40代後半の学生もいるが、若い学生たちとお互いに教えあってフォローしている。

【風間委員】

自己点検自己評価の前年度比較で数字をみると、点数で0.3ポイント動いているところがある。「社会・地域貢献」は約0.3ポイント下がっているが、これはコロナ禍の影響と理解している。

「国際交流」は約0.3ポイント上がっているが、コロナ禍で実績がないのに上がっているのは何故か。そして「実習」は約0.3ポイント下がっているが何故か。さらに「実習」の細項目「安全教育」も下がっているのは何故か。

【島田看護学科長】

「国際交流」は、2022年度からの新カリキュラム導入に伴い、語学学習として『国際英語村』への参加を予定している。この村に入ると英語しか使えない。この学習の構築に伴い、2021年度の教職員の評価が上がっていると考えている。また、医療英語の模試「トーテック」では当校の学生が全国3位になったことも影響していると考えている。

「実習」では、コロナ禍の影響により校外学習に行かれなかった影響がある。病院での実習で、いろいろな計画を立て、体験をすり合わせていくことでコミュニケーション力を上げられたかという点で、当校教員が自信を持てなかったのではないかと推測している。

【五十嵐副学校長】

「安全教育」は、感染者が出た場合の報告・連絡を高いレベルで実行できていたにも関わらず、結果として陽性者が発生したという意識が教員にはある。

2021年度は、老人保健施設での校外実習は結果としてほとんどが断られた。このため「社会・地域貢献」のポイントが下がったことにつながっている。本来、地域に根差す重要な事項であるが、コロナ禍で取り組みが困難であったと考える。

【益井委員】

実習の記録は紙媒体で行うのか。

【五十嵐副学校長】

実習の記録は紙媒体で行う。記録は個人情報なので、校外実習中に電子データで時間

と場所を選ばず管理することは難しい。

【島田看護学科長】

実習記録は個人情報とならぬように「学習ノート」として編集し、学生に返却していた。

【益井委員】

授業中に学生がタブレットにノートとして記録しているのを見て、いつも感心している。しかし、文章表現力のスキルを上げていくことにはどう影響するのか。

【島田看護学科長】

1年生は、レポート作成をした経験がない学生が多い。技術演習の報告は紙媒体で学生から教員に提出させており、その返しをする際に学生に教えている。

【村山委員】

自分が高校生のときは、紙媒体で授業を記録していた。厚手に入学してからタブレットを基本としている。コピー&ペーストで記録するので知識として記憶しにくいところもある。しかし技術向上の面では、動画を直ぐに見て確認するなど、役に立つ面もある。

【武藤学校長】

タブレットを導入してから、今年度（2022年度）で3年目であり、文章表現力の向上という部分では、まだこれから評価することとなる。

【五十嵐副学校長】

現在の高校1年生は、授業にタブレットが導入されている。その学生たちが入学するときの強みとなるよう、吟味していく所存である。

【渡辺美加子委員】

2021年度中コロナ禍で実習に参加しづらかった環境にいた学生が、2022年4月に神奈川リハ病院に入職してきた。当院では新人看護師ガイドラインの技術チェックで2021年4月に入職した学生と比較している。

結果として2021年4月に入職した看護師のほうが、「人と関わるのが難しい」という意見が多く、2022年4月入職はコロナ禍の影響を大きくは受けていないという印象を持っている。そして今後、タブレットを導入した学生が入職してきたら、動画による技術修得の効果は高いと期待している。

【五十嵐副学校長】

学内実習では、コロナ禍の影響を受けた校外実習を補う意味でも気合を入れている。教員たちも学内実習に工夫を重ね、つきっきりで教えている。

【村山委員】

コロナ禍のときは、午前中だけで終わる登校日もあったが、その最中でも先生たちはつきっきりで面倒を見てくださっていた。

【渡辺美加子委員】

神奈川リハ病院では、病院長が実習受入を抑制しない方針をうち出しており、看護学生は新型コロナ感染対策においても安心だと考えている。今後もこのスタンスを病院として継続し、他病院にも実習受入を推進するよう働きかけていきたい。

【渡辺そのみ委員】

3年生はコロナ禍で学外実習に行かれない状況が続いてきた、今、ようやく実習に行かれる状況になり、その実習の場面で学生たちに協調性がないことが分かってきているようである。まだ実習の流れを把握できていないところもあると思うが、学生たちにはこれからの実習を頑張ってもらいたい。

【渡辺美加子委員】

先日、神奈川リハ病院看護師を志望する学生の就職面接をした。コロナ禍で実習にど

う取り組んでいたか尋ねたところ、厚着では学生たちが一致団結して頑張っていると答えていた。

【武藤学校長】

最後にご報告がある。当校では2023年4月入学生から、学士取得の可能なダブルスクールを取り入れる予定である。まだ申請段階で許可はこれからの段階であるが、希望選択される入学生に、今後、学士取得の道を進めていく予定である。

以上